

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 戸畑中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

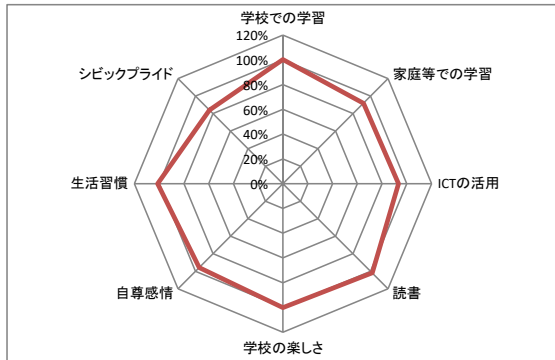
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比べて同等か上回っているものがほとんどだが、記述を苦手としている傾向があり、記述式の問題に関しては無答率も高い。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくできた問題	文章の種類とその特徴について理解する問題		
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題		

算数	全体的な傾向や特徴など	A数と計算、C変化と関係、Dデータの活用については全国と同等または少し下回るが、B図形領域に課題がある。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取る問題。		
	努力が必要な問題	面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題。		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・	家庭学習で、「家で計画を立てて勉強していますか」「月曜から金曜まで学校の授業時間以外に1時間以上勉強していますか」の肯定的な回答が低かった。「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用をしたり、適切な量の宿題を出したりする必要がある。
・	ICT機器を使うのは勉強の役に立つと答える児童が多い一方で、5年生までタブレットの活用頻度がやや低かった。現在は、発表ノートで考えを共有したり、タイムシフトカメラを活用して体育科の学習を行ったりしており、児童もタブレット使用に慣れてきた。
・	「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合が低かった。学校と地域が連携して、保護者に啓発していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 朝の活動の時間（読書タイム、算数タイムなど）を全校一斉に実施し、その定着を図る。
- 1時間の学習の中で「書く活動」を入れ、記述への苦手意識を軽減する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭学習チャレンジハンドブック」などを活用して、家庭学習のやり方や大切さを児童に紹介したり、学級懇談会や個人懇談会、学校だよりや学年だより等を通して保護者へ啓発していく。